

【第7日】11月12日（火）雨 17℃ 小国ー山形県 JR 手ノ子駅 20km 9時間10分

昨夜の嵐がまだ残っていて、真っ黒な雲が頭上を通過する度にザッと大粒の雨が降り、直ぐに止み、また降る。これを何度もくり返す。日本海側の初冬はこんな日が多いようだ。

雨具は軽量折たたみ傘とコンビニで買ったカップとズボンの膝下カバー。長年ポンチョを使ってきたが、脱着が面倒なので今回は簡易カップに替えてみたところ、傘と一緒に使うので防水に問題はなく、リュックサックの上げ下ろしなども楽になった。ズボンの膝下カバーは、裾から靴の中に入る水を防いでくれる。

道は山間部に入ってトンネルは7つあったものの、車道より1段高い側溝があったので不安なく通過できた。昼食は道沿にあった一軒のラーメン店に入り、半ラーメンにチャーシューのトッピングを注文した。雨の山道は腰を下ろす場所がないので、店内の暖房と椅子はありがたい。時間に余裕があるのでゆっくり休んだ。小国街道最後となる新宇津トンネルを抜けると平野が開け、山形県飯富（いいだ）町 JR 米坂線手ノ子駅近くの宿に到着した。

今日も途中で道路工事中が何カ所あったが、全国どこの道路工事現場でも係員は歩行者に親切だ。同行して誘導してくれることも多く、その徹底ぶりには感心する。いつも「ご苦労さまです」と言って通る。

宿は民宿「おじか」夕朝食付 6,000 円。朝食は6時に用意をしてくれた。母親と50歳代の独身息子と二人で食堂と宿を切り盛りしている。どちらも働き者だった。



<雨の合間の小国街道>

第8日】11月13日（水）小春日和 17℃ 手ノ子ーJR 奥羽本線中川駅 28km 10時間10分

絶好の歩き日和。小国街道の部分は2割程度に留めて旧国道や農道を歩いた。途中のコンビニで大阪に戻る夜行バスの料金を振り込もうとしたが、振込画面が次に進まない。何度やってもダメなので電話で問い合わせると、予約番号を間違えて入力していた。

15時頃に宿を取っている赤湯温泉に着いた。しかし翌日、山形市までの距離を縮めておくために、赤湯から一駅先にある中川駅まで足を延ばした。中川に到着して、コンビニでホットドッグを買って玄関横の車止めに座って



<トンネルの側溝>

食べていると、コンビニから出てきたおじさんに話かけられた。世間話などをしている内に、翌日の朝にその人の家に寄ることになった。何でも、芍薬が有名でフクロウもいる神社の宮司さんらしい。

おじさんと別れて、中川駅から赤湯に戻る電車に乗った。赤湯駅までは一駅だ。車内でスマホの地図や天気予報に見入っていたので、ハッと気づいた時にはどこかの駅を発車してしまった。隣の人に聞くと赤湯駅は過ぎたという。次の駅で下車し、30分ほど待ってから逆方向の電車に乗り換えた。一駅戻れば赤湯のはずなのに、赤湯ではない。駅を二つ乗り過ごしてしまったのだらうと思いながら、二つ目の駅でホームに降りると、何とそこは始めに乗車した中川駅ではないか。慌てて乗って来た電車に飛び乗り、次の三つ目の駅でやっと赤湯にたどり着いた。そもそも、最初に上りと下りを勘違いして、赤湯とは逆方向の電車に乗ってしまったのが間違いの元だった。宿入りが19時になってしまい外に出る気力もなく、夕食はいつものようにコンビニ弁当で済ませる。ホトホト疲れた。

宿は赤湯温泉駅前のビジネスホテル「丹泉」素泊 5,900 円。赤湯は温泉旅館ばかりでビジネスホテルが少ないためか、仕事関係の客で繁盛していた。

【第9日】11月14日（木）雨 13.5℃ 中川駅ー山形市 28km 11時間10分

電車で中川駅に戻ってから出発し、40分ほどで神社に着いた。昨日のおじさんは諏訪神社の宮司さんで大武さんといわれる。フクロウが2羽いる玄関から社務所兼自宅に上がってお茶と手作りの漬物などをご馳走になり、1時間近く話をして「しそ酢」のお土産まで頂いた。人家のまばらな地区で、奥様と二人で神社を守って行くのは大変だろうと推察する。境内は手入れが行き届き、芍薬を神社の名物にして地域にも広め、境内にベンチやテーブルを設けて憩いの場を造るなど、一所懸命に務めを果たされている様子が窺える。何よりもご夫婦の飾らない人柄が地域の人に親しまれ、神社の支えになっているように思えた。



＜大武さんご夫婦＞

神社を辞して上山市（かみのやまし）に入ると、遠く雨に煙る田園風景の中に異様に高い建物が見えてきた。東北地方で最高層の41階建て、戸数389戸のタワーマンションと後で分かった。傍に居た道路工事のおじさんに聞くと、上山市一番の名物だといって笑っていた。バブルの産物で、最終的に完売した時は半値だったらしく、開発した「山万アーバンフロント」は破産した。入居者へのアンケートによると、住み心地に満足している人が多いという。

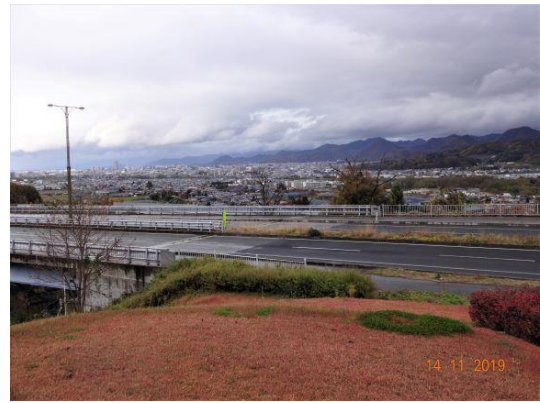


＜上山市のタワーマンション＞

タワーマンションを過ぎて山形市にさしかかると、急に道路が新しく広がっている。横幅は片側4車線分あり、車道と路側帯と歩道がある。途中の「蔵王みはらしの丘」は公園の

ように整備されていて、美術館のような COSTCO や製薬会社の真新しい工場などがあり、新興住宅街も見えた。このように大規模な地域開発事業は北陸でも各地で見てきた。ようやく北陸や東北に開発の順番が回ってきたといえよう。

17 時半頃に山形駅西口に着くと、ここも再開発が進んで近代的街並みになっていた。コンビニで夕食と明日の朝食を買ってから、予約している宿を探し歩いた。しかし辺りは静



<蔵王みはらしの丘から山形市内を望む>

まり返った住宅地で、傍まで来ているはずなのに暗くて分からない。電話をしても出ない。果物店が 1 軒だけで開いていたので尋ねたところ、おかみさんが宿まで案内してくれ、18 時 20 分到着。出発から 11 時間。夕方から急に冷え込んで疲労も甚だしく、地獄に仏の思いだった。

宿は「ゲストハウス・ミントロハット」素泊 2,000 円。通常は 4,000 円なのだが、自転車や徒歩の人には敬意を表して半額にしているという。マスターは、若い頃自転車旅行の際にライダーハウスを体験してそれに憧れ、同じような宿を創業して 13 年になる。この日も、自ら芋煮鍋を作って 5 人ほどの宿泊客と夕食を共にしながら、歓談していた。疲れていたのも、残念ながらこれには参加しなかった。

【第 10 日】11 月 15 日（金）晴 12℃ 山形市—天童市 15km 5 時間

歩き旅の最終日は、将棋の駒で有名な天童市を目指して羽州（うしゅう）街道を進んだ。天童市中心街に入る手前に、新設された JR 南天童駅があり、駅を中心に戸建てのニュータウン、県内最大のイオン、サッカー「モンテディオ山形」のホームグラウンドなど、地域全体が新しく整備されていた。

南天童駅を過ぎて天童駅へ向かう途中、ここも出羽桜酒造の美術館を中心に、道路と昔風の家並みが整備されている。道筋に古風でモダンな建物があつたので立寄ると、旧東村山郡役所とある。中では、天童が生んだ往年の大歌手、佐藤千夜子の特別展が開催されており、「波浮の港」「東京行進曲」「ゴンドラの唄」などは彼女の歌と知った。

展示品の中で目を引いたのは、明治維新前に天童織田藩が編成した「維新軍楽隊」の写真だ。説明文に、軍楽隊は奥羽鎮撫使の先導を仰せつかったことに由来する。戊辰戦争の後いったん消滅したが、明治 17 年に士族によって復活し、神社の祭典で演奏されていたとある。今でも天童南部小学校に引き継がれているとも聞いた。

明治維新のころ西洋式音楽を最初に演奏したのは、このような藩で設立された軍楽隊だった。明治初期、日本に西洋音楽教育の基礎を築いた文部官僚伊澤修二は、信州高遠藩の藩士時代に選抜されて藩の軍楽隊に入り、



<天童織田藩の維新軍楽隊>

小太鼓を担当していた。彼はその腕を上げて、他藩士の指導もしたと言われている。その当時どんな練習をしていたのか、気になって調べてみたところ、表記は違うが、内容は現在の基礎練習と全く同じものだった。

奥羽本線で天童駅から山形駅に戻ってホテルにチェックイン。ホテルは午前中にネットで予約しようとしたが、通じなかったので電話で予約すると宿泊料は高くなった。行ってみると、数年前バスツアーで花笠おどりを観に来たときに泊ったホテルと分かった。

宿は「山形グランドホテル」素泊 5,600 円。落ち着きのあるシティホテルだ。

【第 11 日】11 月 16 日（土）晴のち曇 12℃ 立石寺参拝、その他

旅の最終日は観光にした。

先ず訪れたのは、芭蕉の“閑さや岩にしみ入る蟬の声”で有名な立石寺（りっしゃくじ）。山形駅から JR 仙山線で 17 分、山寺駅下車。寺は目の前の山腹にあった。想像していたより規模の大きな寺で、奥の院までは千段の階段を上る。山は凝灰岩を主に出来ているらしく、白っぽく表面の粗い巨岩が幾つもあり、寺から見下ろす景色もよい。そんな岩肌を見ると、蟬の声がしみ入るのもリアリティーがあるように感じた。



＜山寺駅から望む立石寺＞

山形に戻って、駅の傍にある霞城（かじょう）セントラルビルの 24 階レストランで昼食をとる。

夜行バスの出発までにはかなり時間があるので、地下の映画館に下りて「ターミネーター・ニューフェイス」を観た。その後、初代山形藩藩主、最上義光（もがみよしあき）が築いた山形城（霞城）城跡を訪れ、城内に建つ山形県立博物館の土偶などの展示を観て過ごす。

夕食は駅東口前にある古い飲み屋街の「豆の木」で芋煮定食とビールを注文し、出発時間まで腰を据えた。

夜行バスは山形駅前発 19 時 47 分。山交バス、運転手 2 名。座席は 3 列独立シート。トイレ付。運賃 13,300 円。これは鉄道の半額。乗客は 10 名程度。途中米沢に寄ってから、思い出が残る小国街道を逆に辿って新潟に向かい、北陸道から大阪に入った。梅田には翌 11 月 17 日（土）7 時に到着した。

【旅を終えて】

毎朝、リュックを背負って歩きだすのが気持ち良かったし、道すがらの自然や建物や人々の暮らしぶりなどを眺めるのも興味深かったし、小さな親切もたくさん頂いた。人から「まだ歩いてるの?」と言われるが、まだ飽きないし、何よりも妻が喜ぶので、来年の春か秋には龍飛岬を目指し、山形から続きを行くつもりでいる。